

# アルプス技研 | 4641

東証 1 部



## 日本のものづくりを支えるパートナー

日本の無期雇用型技術者派遣の需要は現在の環境においても強く、同社は技術労働力の構造的な不足により恩恵を受けるポジションにある。同社の戦略は人材育成に重点を置き、新卒の若手技術者を優秀な技術者へと育て、シニアまで長期的に活躍できるよう全面的にバックアップすることで秀でた実績を上げてきた。経営陣は、金融危機時でも社員の雇用を確保し、配当性向50%を継続できるようバランスシート上十分な流動性を維持している。現在のPBR3.5倍は市場平均に対して一見割高にも見えるが、ROE25%以上の高い資本効率を勘案すればPER13倍は低く、投資家が懐疑的な見方をしているのか、或いはニグレクトされている可能性があると言えるだろう。

百万円、%	売上高	営業利益	OPM	経常利益	RPM	純利益	NPM	EPS	配当
FY2017/12	30,260	3,239	10.7	3,276	10.8	2,367	7.8	115.81	116
FY2018/12	32,781	3,587	10.9	3,606	11	2,667	8.1	136.48	80
FY2019/12	36,371	4,015	11	4,098	11.3	2,908	8	138.93	73
FY2020/12 CE	38,320	4,270	11.1	4,270	11.1	2,910	7.6	139.02	70

## 日本の構造的技術者不足に対応

同社は製造業の労働市場が逼迫する中、技術者を柔軟に確保できるよう日本のものづくり企業を支援する独立系技術者派遣のパイオニアである。新型コロナウイルスによる不況は、これまでのところビジネスの辺縁部に影響を及ぼしているが、派遣契約に目立った解約はなく、現在の稼働率は90%超を維持しているという。同社の技術者は、5G、AI、IoTなどの構造的な成長分野に長期的に派遣されているのも強みである。AI等の先端技術分野の人材育成も積極的に進め、着実に単価アップを図っている。研究開発は製造業において競争力の源泉になるため、短期の景気変動の影響を受けにくい。また同社は派遣業界では先駆的に農業、介護分野へ進出している。入管法改正の追い風を受け、アグリテック、アグリ（就農）分野の外国人材を全国規模で派遣するなど、同分野でのリーディング企業を目指している。

## 人材育成の根幹は経営理念”Heart to Heart”

アルプス技研は、主に理工系大学出身者を新入社員として採用し、有能な開発・設計技術者に育てることを得意としている。同社は技術者の採用段階から、研修、実務経験に至るまで、人事プロセス全体を通して技術者としての自らの価値を知り、自身のキャリア目標を確実に達成できるよう先輩社員や営業担当など様々な人との関わり合いを深めながらサポートするのが特長である。成長過程に応じて新たな目標に挑戦することで優秀な技術者へと成長していく。また、同社はチームでの派遣を積極的に推進しており、これも人材流出を防ぎ長期就労につながっている。

### Key Indicators

Share price (8/24)	1,881
YH (20/02/12)	2,172
YL (20/03/13)	1,210
10YH (20/02/12)	2,172
10YL (11/3/16)	219.1
Mkt cap (¥ bn)	47.2
Shares out. (mn)	20.459
Equity ratio (20/06)	62.2%
Treas. shrs (20/06)	4.288
FY20/12 P/E (CE)	13.5x
FY19/12 P/B (act)	3.2x
FY19/12 ROE (act)	25.6%
FY3/20 DY (CE)	3.72%

### Share Price Chart & Vol. 52 weeks



### ブル

強固なバランスシートと高い成長率。開発分野への派遣が多く景気悪化の影響を受けにくい。チーム派遣方式で不況期での抵抗力が強い。

### ベア

新型コロナウイルスにより外国人材来日の遅延、一部顧客企業では稼働率の低下、在宅勤務の広がりも。

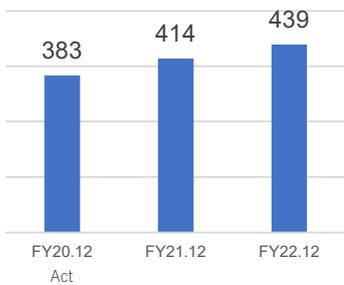
SESSAリサーチチーム  
research@sessapartners.co.jp

セクター別売上高と比率  
2020年12月期第2四半期

(億円)	売上高	比率
自動車関連	52	34.9%
半導体関連	25.5	17.1%
精密機器関連	16.9	11.3%
電機関連	11.1	7.4%
医療系	9.9	6.6%
その他	33.7	22.7%

出所：FY2020/12Q2決算説明会資料よりSESSAパートナーズ作成

中期経営計画売上高 (億円)



出所：FY2019/12決算説明会資料よりSESSAパートナーズ作成

2020年12月期第2四半期の決算は堅調

4-6月は新型コロナウイルス対策として全国的な緊急事態宣言が出された四半期であったが、同社の通期予想に対する売上・利益の進捗率はそれぞれ45.6%、49%と順調であった。派遣先で在宅勤務の指示がでたり、残業時間が減るケースもあったが、客先の業績悪化による契約終了はごく僅かであるという。感染の第二波が拡大中であるため楽観はできないが、前述したように同社が戦略的に製造業の研究開発分野をターゲットにしてきた成果と言えるだろう。

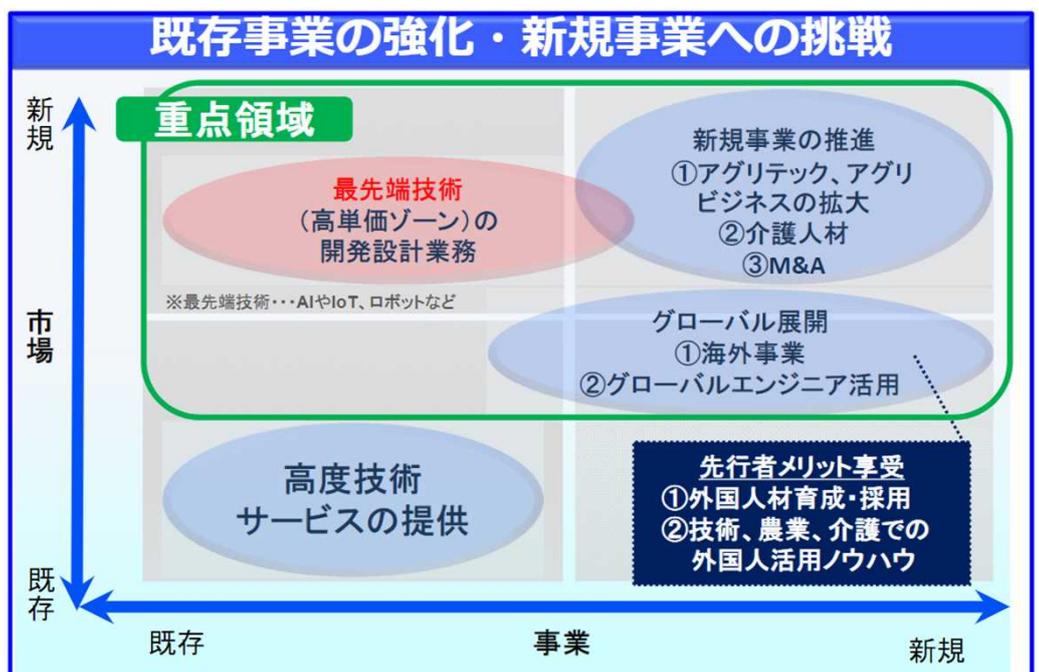
健全なバランスシート

アルプス技研は保有現金68億円、売掛金は50億円と健全なバランスシートを誇っている。有利子負債はわずか7億円であり、現金と売掛金の合計は売上高の3か月分以上である。厚い余剰資金は不況期にも人材を確保し、50%の安定した配当性向を維持するための重要なバッファとなっている。2009年のリーマンショック当時は稼働率が64%まで落ち、社員約3000人のうち約1000人が社内研修を受ける状況となったが一人も解雇しなかった。雇用を守ってこそ、同社の要である研修制度、昇給制度が効果を発揮するからである。

アグリ&ケア - 新たな戦略分野

同社が2020年2月に公表した中期経営計画では、売上高383億円から439億円（2022年）に拡大するを目標としている。重点分野のひとつは農業と介護分野の拡大である。経営陣はこれらの労働集約型セクターからの需要に応えるため、積極的にアグリテック・アグリ（就農）分野の外国人材の採用と育成に取り組んできた。

農業の分野では栽培から遺伝子分析まで幅広い職種をカバーしており、コロナ禍の人手不足から益々需要は高まっている。外国人材はミャンマーのヤンゴン支店やアルプス技研高等職業訓練大学校、その他東南アジア地域の大学や現地教育機関等と連携し、選抜された人材が来日に向け日本語や専門教育を学んでいる。同社は2000年代前半から技術分野で長年の外国人材育成ノウハウを有しており、これを活かし、アグリ分野でも積極的に事業を拡大している。



出所：同社FY2019/12決算説明会資料

## LEGAL DISCLAIMER

### ディスクレイマー／免責事項

本レポートは対象企業についての情報を提供することを目的としており投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。本レポートに掲載されたデータ・情報は弊社が信頼できると判断したのですが、その信憑性、正確性等について一切保証するものではありません。本レポートの使用に基づいた商取引からの損失についてSESSAパートナーズは一切の責任を負いません。当レポートの著作権はSESSAパートナーズに帰属します。当レポートを修正・加工したり複製物の配布・転送は著作権の侵害に該当し固く禁じられています。



**SESSAパートナーズ株式会社**

東京都渋谷区広尾5-3-18

[info@sessapartners.co.jp](mailto:info@sessapartners.co.jp)